

町では、災害情報や町からのお知らせが放送される「防災行政無線」を無償貸与しています。



「もしものとき」は明日かもしれない 問い合わせ 総務課 情報防災グループ ☎ 27-2481

防災のページ 土砂災害防止について

国土交通省と都道府県は、防災・減災の取り組みの一環として梅雨や台風の時期を迎えるにあたり、国民一人ひとりが土砂災害の防止および被害の軽減の重要性について認識し、理解が深められるよう、毎年6月を「土砂災害防止月間」と定め、「全国の集い」、「功労者の表彰」、「小中学生を対象とした絵画・作文の募集」などに取り組んでいます。

土砂災害は、すさまじい破壊力を持つ土砂が一瞬にして多くの人命や住宅などの財産を奪ってしまう恐ろしい災害だということは、大規模な土砂災害を経験したわが町では、記憶に新しいことと思います。土砂災害が起こらなかった場所でもまだまだ地盤は緩んだ状態にあり、大雨などで土砂災害が発生する危険性があるため、日頃からの備えが重要です。

土砂災害から身を守るために知っておきたい3つのポイント

1 台風が来る前に 住んでいる場所が土砂災害危険箇所か確認しましょう

土砂災害の多くは「土砂災害危険箇所」で発生しています。町のハザードマップやホームページ、土砂災害警戒情報などで確認しておきましょう。

①厚真町ハザードマップ
http://www.town.atsuma.lg.jp/hazard-map/
※総務課で配布しています



②北海道土砂災害警戒情報システム
http://www.njwa.jp/hokkaido-sabou/
ホーム > 土砂災害警戒区域等の指定状況 > 市町村を選択 > 厚真町



2 雨が降り始めたら 土砂災害警戒情報や雨量の情報に注意しましょう

大雨で土砂災害発生の危険度が高まった時には「土砂災害警戒情報」(警戒レベル4相当)が発表されます。雨が降り出したら、雨雲の動きと土砂災害警戒情報に注意しましょう。

①気象庁ホームページ
https://www.jma.go.jp/
ホーム > 防災情報 > 土砂災害警戒情報
ホーム > 防災情報 > 大雨・洪水警戒の危険度分布: 土砂災害 (メッシュ情報)



②北海道土砂災害警戒情報システム
http://www.njwa.jp/hokkaido-sabou/
ホーム > 土砂災害警戒情報
ホーム > 土砂災害危険度情報
ホーム > 降雨情報



3 警戒レベル4で全員避難 早めに安全な場所に避難しましょう

土砂災害警戒情報(警戒レベル4相当)が発表されたら避難勧告が発令されていなくても土砂災害警戒判定メッシュ情報などを参考にして、早めに避難しましょう。

土砂災害警戒情報(警戒レベル4相当)が発表されたら、家族や親戚、地域内で声をかけあい、早めに安全な場所に避難しましょう。特に、お年寄りや障害のある人など避難に時間がかかる人は、移動時間を考えて早めに避難することが大切です。

また、夜間に大雨が予想される際は暗くなる前に避難しましょう。豪雨などで避難所への避難が困難な場合は、必ずしも安全ではありませんが、近くの頑丈な建物の2階以上に緊急避難したり、がけから離れた部屋や2階に避難しましょう。



避難所における新型コロナウイルス感染防止について

避難所へ避難する際は、新型コロナウイルス感染防止のため、入所時の検温、マスクの着用、手洗い、うがい、咳エチケット、社会的な人との距離の確保(ソーシャルディスタンス)、適宜の換気などにご協力をお願いします。

海浜まつり実行委員会が町に寄付

浜厚真海岸を会場に35年間続いた「あつま海浜まつり」実行委員会の鈴木英毅委員長らが4月23日に役場を訪れ、約25万円を町に寄付しました。

まつりは、町民有志で組織した実行委員会が企画・運営していたもの。ホッキ貝のつかみどりが人気で、過去には、花火の打ち上げもあり、初夏の風物詩として町内外から広く親しまれました。胆振東部地震半年後の昨年4月、災害復旧を優先して開催を中止し、実行委員会の解散も決めました。

鈴木委員長は、宮坂町長に目録を手渡し、「35年間、続けることができて良かった」と振り返りました。



寄付金を贈る鈴木実行委員長

新生児7人に「君の椅子」贈呈

子どもたちの成長を願い、町内の新生児に椅子を贈る「君の椅子」プロジェクトで、宮坂町長は4月24日、7人に記念の椅子をプレゼントしました。

「君の椅子」プロジェクトは、北海道文化財団理事長で元旭川大学院教授の磯田憲一さんらが平成18年にスタート。厚真町を含め、道内外の8町村がプロジェクトに参加しています。東京のデザイナーが毎年、椅子のデザインを考え、旭川市の家具職人が道産材で仕上げています。贈呈は2月に次ぐ2回目で、令和元年9月6日～12月31日に生まれた7人に贈られました。



椅子に座って上機嫌の川上柊依ちゃん(上厚真の自宅で)

個別訪問した宮坂町長は「健やかな成長を願っています。子育てをサポートします」と話すと、父母たちは「しっかりした作りで、可愛い」と喜んでいました。

町出身の佐藤さんがマスクを寄贈

町出身で千葉県鎌ケ谷市在住の自営業、佐藤誠さん(71歳)がマスク1,000枚を寄贈し、町は福祉施設など6施設に5月1日、配布しました。

佐藤さんは、中学卒業まで厚真町で過ごし、現在は東京厚真会の幹事を務めています。北海道の新型コロナウイルス感染症の感染拡大を不安視していたところ、偶然、知人を通じて大量のマスクが購入でき、故郷への恩返しを思いついたそうです。

配布したのは、厚真福祉会(350枚)、社会福祉協議会(200枚)、ゆうあいネットあつま(150枚)、あつまクリニック(100枚)、桂歯科クリニック(同)、厚真歯科(同)。各施設は「品薄なので、大変助かります」と感謝しました。



笑顔でマスクを受け取る厚真歯科の呉院長

土地改良区が取水式 出来秋の豊穣を祈願



営農用水の安定供給を願う関係者たち

町土地改良区(山田英雄理事長)主催の取水式が5月14日、京町の事務所前で行われ、関係者は安定した営農用水の供給と出来秋を願いました。

営農用水の主な水源は、厚真ダムに貯水された融雪水。取水式は、例年、厚真ダムで行われますが、昨年は胆振東部地震の影響で、今年は祭壇の修理のため、場所を変更。祭壇には、約50年ぶりに重厚な水神宮もまつられました。

神事は、新型コロナウイルス感染を警戒して簡素化され、町土地改良区の役員など約30人が参加。関係者は豊穣の秋を願って玉串をささげました。